

ご存じですか？

敷戸弾薬庫に長距離攻撃ミサイル保管

攻撃ミサイルで日本を守れるでしょうか？ 戦争になれば日本経済は崩壊？

戦争で食糧不足になれば、花農家にイモ作りを強制？ こんな未来を若者に残せますか？

大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会(仮称)準備会 2023年7月

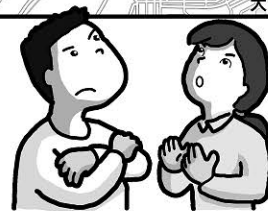
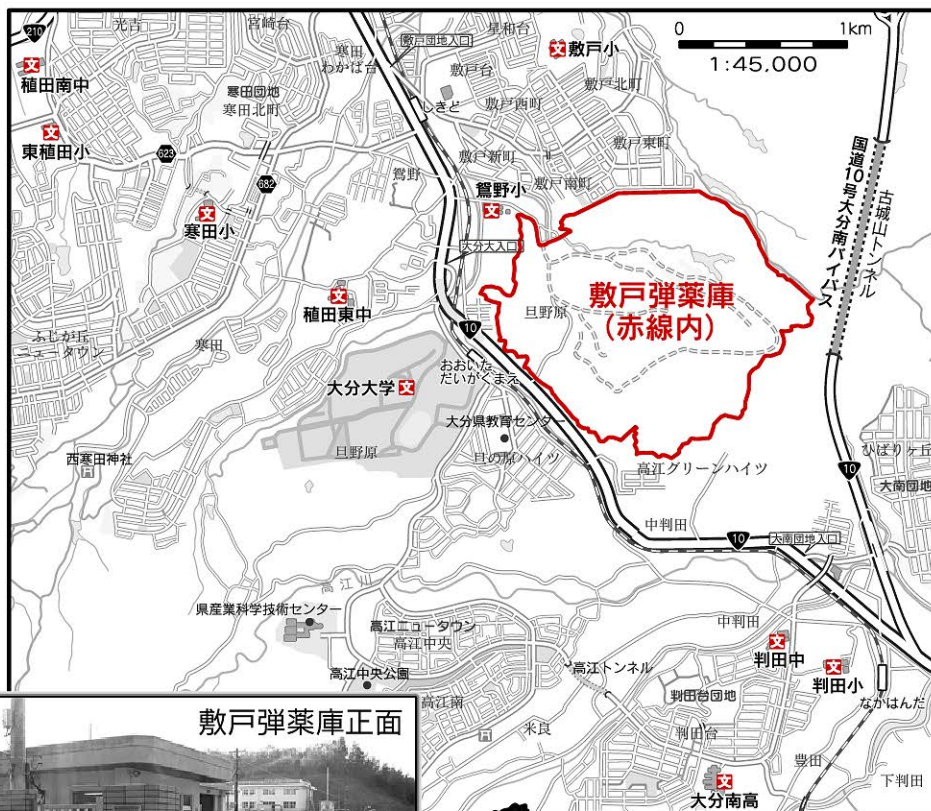
敷戸弾薬庫に長距離攻撃ミサイル保管 戦争に巻き込まれる危険

政府は、大分市内の通称敷戸弾薬庫に2棟の大型弾薬庫を新設し、外国領土を攻撃できる射程1000km以上の長距離ミサイルを保管する計画です。

これまでの、「専守防衛」に反するため、保有しなかった長距離ミサイル。その保有は平和主義に反し、憲法9条のもと許されません。

憲法学者・政治学者・日弁連などからも厳しく批判されています。

「台湾有事は日本の有事」という立場は、台湾の戦争に日本が参戦すること。「専守防衛」をやめて外国をミサイル攻撃すれば、外国の戦争に日本が巻き込まれ、反撃されます。



これで大丈夫？
心配だわ。

弾薬庫は住宅密集地のど真ん中 住民が犠牲になる危険

敷戸弾薬庫は、JR大分大学前駅の目の前。国道10号線、米良バイパスにも隣接。大分市の中心部から約6km。パークプレイスへ約3km。

近隣の小学校5校(鶯野、敷戸、寒田、東植田、判田)の校区だけで、2万世帯4万人が生活する住宅密集地のど真中。

柳沢協二(元・防衛省高官、元官房副長官補)氏は、「敵基地攻撃、際限のない撃ち合いに」「国民に被害及ぶ恐れ伝える必要」と、東京新聞の記事で述べています。(東京新聞デジタル版2022年11月30日)。

「ミサイルがあると有事に狙われるのでは」との住民の不安の声は当然のことです。

住民は芋(いも)を食べて生活？ 大軍拡で国民は守られるのでしょうか？

政府は、有事の際などの食糧不足対策として、たとえば花農家に芋(いも)の作付けを強制できる法律を来年の成立を目指して準備しています。芋で生きていく生活が想像できるでしょうか。全国300の自衛隊基地は、核攻撃にも耐えられるよう強靱化される計画です。自衛隊は生き残ったとして、日本国民はどうなるでしょうか。

政府はこの5年間で43兆円、その後は毎年10兆円超の軍事費という大軍拡を計画していますが、大軍拡で日本の国民は守られるのでしょうか？子育てなど若者世代のためにお金を使うべきではないでしょうか？

戦争による悲惨な状況は日本全国に広がる

戦争が始まれば、物流の混乱などにより、生産の減少、企業の倒産や失業、インフレなど、その影響は日本全土に波及します。ミサイル基地から離れているから大丈夫ということではありません。同じことは、韓国、中国、台湾その他でも起こります。つまり、外交こそ、賢明で可能な問題解決の道ではないでしょうか。

明るい未来を若者や子どもたちに 平和の準備を進めましょう。

大型弾薬庫ではなく、明るい未来を若者や子どもたちに残しませんか。

計画の中止を求める声を県内各地で広げ、平和の準備を進めましょう。

住民集会

敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える

日時 8月11日(金・祝) 14:00~16:00

会場 植田公民館 集会室

(大分市玉沢789 電話 097-541-0017)

記念講演：岡村正淳弁護士

「敷戸弾薬庫になぜ長距離ミサイルなのか？」



我輩は猫である
イモはすかん！

★どなたもご参加自由 参加費無料★

主催：大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会(仮称)準備会

発起人

- ・岡村正淳(弁護士) ・賀来進(大分県保険医協会副会長)
- ・神戸輝夫(大分大学名誉教授) ・二宮孝富(安保法制違憲訴訟大分原告団共同代表)
- ・野中高美(大分市平和運動センター議長) ・藤井富生(大分市高江南在住)
- ・松本文六(医師) ・宮成昭裕(元敷戸北町自治会長)

連絡先

tel: 090-1086-3316

<https://shikidoshimin.wixsite.com/shikido>

e-mail: shikidoshimin@gmail.com



homepage